図 12.7　深在性エリテマトーデス（lupus erythematosus profundus）
SLE 患者に生じた広範な脂肪織炎．被覆表皮には DLE の皮疹を認める．

4. 凍瘡状エリテマトーデス　chilblain lupus

凍瘡状狼瘡ともいう．慢性型エリテマトーデスの一種．四肢末端や鼻尖（びせん），耳介部などに凍瘡（13 章 p.223 参照）に類似した紫紅色斑をみる．冬季に悪化しやすい．病理組織学的には DLE と同様である．類似の皮疹を呈するびまん浸潤型サルコイドーシス（lupus pernio，18 章 p.345 参照）も凍瘡状狼瘡と訳されるため注意が必要である．

5. 亜急性皮膚エリテマトーデス
subacute cutaneous lupus erythematosus；SCLE

定義

慢性型 DLE と，急性型 SLE の丘疹紅斑との中間に位置する経過や皮疹型を示すものである．

症状・病理所見

露光部を中心に対称性に皮疹が多発する．中心退色傾向をもつ紅斑を生じる環状連圏状型（annular-polycyclic，**図 12.8**）と，乾癬に類似し軽度の鱗屑を伴う丘疹落屑型（papulosquamous, psoriasiform）が多い．いずれも瘢痕を残すことなく治癒するが再発性である．本症患者の約半数が SLE の診断基準を満たすが，重篤な腎症状や中枢神経症状は少ない．病理所見は SLE の項を参照．

検査所見

60 ～ 80％の例で抗核抗体陽性．抗 SS-A 抗体（70 ～ 90％），抗 SS-B 抗体（30 ～ 50％）の出現頻度が高いことが特徴的で

a　b

図 12.8　亜急性皮膚エリテマトーデス（subacute cutaneous lupus erythematosus；SCLE）
a：中心退色傾向をもつ環状連圏状紅斑．Sjögren 症候群に生じる環状紅斑に類似する．b：丘疹落屑型．